

平成26年度 京都府立大学地域貢献型特別研究 (ACTR) 成果

分類 番号	A39	取組 名称	宇治市炭山区における住民主導型の災害に強い地域づくりと 森林整備に関する実践的研究
研究代表者：生命環境科学研究科 助教 三好岩生			
研究担当者： 京都府立大学（三好岩生、長島啓子） 外部分担者・協力者（富部炎氏、桑村明憲氏 ほか）			
主な連携機関（所在市町村、機関（部署）名） 京都府山城広域振興局（森づくり推進室）、宇治市（農林茶業課）、宇治市炭山区 など			
【研究活動の要約】			
<p>平成24年の京都府南部豪雨災害時など、これまでに多くの自然災害を経験した宇治市炭山区において、住民主導による防災体制整備や減災に向けた森林管理のあり方について研究を行った。</p> <p>防災体制整備のあり方については、住民自らの手によって作成する自主防災計画（マイ防災プラン）を、地元住民組織と京都府立大学を中心にワークショップ形式での意見交換等を行った上で作成する過程で、その地域性の反映状況について検討した。</p> <p>災害に強い森林管理のあり方については、炭山区の森林506haを対象に、空中写真の判読から植生図と枯死木の位置図を作成し、現地踏査によって修正を加えた。また現地で森林の階層構造やシカの食害の程度等についての調査を行い、GISで整理した上で統計的な解析を行った。</p> <p>これらの成果を反映したパンフレットを作成し、他の地域での参考資料となるようにした。</p>			
【研究活動の成果】			
<p>①住民主導の防災体制整備のあり方については、炭山区のマイ防災プランの作成において、住民が計画の全体を把握しやすいように端的に記述し、災害時の住民や地元役員の対応が一目でわかるように工夫するという特色がみられた。これらの特色は一昨年の被災経験に基づいたものであり、被災経験が防災体制整備に影響を与えることが明らかになった。</p> <p>②災害に強い森林管理のあり方については、炭山区の森林においてシカの食害や光環境の悪化がみられ、とくに区域の北部において森が衰退しており、健全な森林へと誘導する必要があると考えられた。またそれらの森林に関する情報と平成24年の京都府南部豪雨災害時に崩壊が発生した区域との関係を解析したところ、森林の状態と崩壊発生との間に特段の関係性はみられなかったが、地形的に集水面積が広く、勾配の大きい森林で崩壊が多発する傾向が把握された。</p>			
【研究成果の還元】			
<p>H26/12/3 「災害に強い山づくり学習会」於、宇治市笠取第2小学校 関係者等約20名 H27/3/7 「災害に強い山づくり現地報告会」於、宇治市炭山八幡宮社務所 関係者等38名 パンフレット「宇治市炭山区における災害に強い森づくり」の作成、関係者への配布</p>			
【お問い合わせ先】			
<p>生命環境科学研究科 砂防学研究室 助教 三好岩生 Tel: 075-703-5645 E-mail: i_miyosi@kpu.ac.jp</p>			

参考 (イメージ図、活動写真等)



現地調査 (H26/7～10月)



小学校での災害に強い山づくり学習会
(H26/12/3)



災害に強い山づくり現地報告会 (H27/3/7)